

PS 及び SM の 2021 年 12 月度及び年間 実績概況

(PS)

1) PS の 2021 年 12 月度の実績概況

生産は 61.0 千トンとなった。前月比-6%、前年同月比では+5%となった。

国内出荷は 51.1 千トンと前月比-7%と減少した。前年同月比では+4%の増加となった。用途別では、包装用は前月比-5%となり、前年同月比では+12%の 23.3 千トンとなった。分野別に見ると、乳酸菌は前月比プラス、OPS は前月並みとなった。前年同月比では各分野でプラスとなった。雑貨・産業用は前月比-10%、前年同月比では-8%の 7.6 千トンとなった。フォームスチレン用は 14.8 千トンと前月比-11%と減少し、前年同月比では+6%となった。PSP、ボードとも前月比マイナス、前年同月比でプラスとなった。電機・工業用は 5.4 千トンと前月比-4%、前年同月比では-11%となり、分野別に見ると、デジタル家電、事務機器は前年同月比プラスとなった。

輸出は 6.0 千トンとなり、前月比+31%、前年同月比+34%となった。

輸入は、11 月 2.4 千トンとなり、累計で 17.6 千トン。年間に換算すると 19 千トン相当となる見込み。

出荷合計は 57.1 千トンとなり前月比-4%、前年同月比+7%となった。

在庫は、前月より 3.9 千トン増加し 100.5 千トンとなった。(在庫月数 1.8 か月)

2) PS の 2021 年 年間の実績概況

2021 年 年間生産量は、717.7 千トンと前年比+9%と増加した。

国内出荷は前年比+6%の 646.1 千トンとなった。用途別では、各用途で前年比プラスとなった。包装用は年間で+8%と増加し 288.1 千トンとなり、各分野で前年比プラスとなった。フォームスチレン用は年間で+3%の 186.7 千トンとなった。PSP、ボードとも前年を上回った。電機・工業用は前年比+8%の 76.6 千トンとなった。生活家電、事務機器は前年を上回った。記録メディアは前年並みとなった。

輸出は、前年比+36%の 67.1 千トンと増えた。

出荷合計では、前年比+9%の 713.2 千トンとなった。

在庫は、前年より増加し 100.5 千トンとなった。在庫月数は 1.8 ヶ月。

2021年を振り返ると、生産は717.7千トンとなり、710千トンを越えるのは2008年以来となる。国内出荷は前年2020年を上回り、新型コロナ前の2019年並みに回復した。輸出も引き続き増え、出荷計では2019年を上回り、2010年以来の高水準となった。内需を用途別にみると、各用途で前年を上回るとともに、包装用、雑貨・産業用は2019年を上回った。輸入はまだ2021年11月までのデータしかないが、前年を下回り年間19千トン相当となる見込み。

(SM)

1) SMの2021年12月度の実績概況

生産は168.1千トンとなった。前月比+3%の増加、前年同月比では-9%の減少となった。

国内出荷は111.3千トンと前月比-13%の減少、前年同月比では-8%となった。用途別では、主力のPS向けは49.7千トンと前月比-16%の減少となり、前年同月比でも-16%の減少となった。ABSは前月比-17%の20.8千トン、前年同月比は+2%となった。一方、合成ゴムは前月比+11%と増加し12.5千トンとなり、前年同月比でも+20%の増加となった。EPSは8.8千トンと前月比+11%となり、前年同月比では-11%の減少となった。不飽和ポリエステルは前月比-6%と減少し2.6千トンとなり、前年同月比では+6%の増加となった。

輸出は55.4千トンと前月比+1%となり、前年同月比では+5%となった。

出荷合計は166.7千トンとなり、前月比-9%、前年同月比-4%となった。

在庫は76.3千トンと前月より10.3千トン増えた。在庫月数は0.5ヶ月となった。

2) SMの2021年間の実績概況

2021年 年間生産量は1,948.5千トンとなり、前年比+4%の増加となった。

国内出荷は前年比+11%と増加し1,422.3千トンとなった。用途別では、GP/HI、EPS、合成ゴム、UPER、ABSとも前年を上回った。主力のPS向けは684.4千トンと前年比+8%となった。ABS向けは258.0千トンと前年比+23%と増加した。合成ゴム向けは139.6千トンと前年比+26%と増加した。EPS向けは101.4千トンと前年比+7%となった。不飽和ポリエステル向けは36.4千トンと前年比+14%の増加となった。

輸出は546.3千トンと前年より-9%の減少となった。

出荷合計では1,968.6千トンで前年比+4%の出荷となった。

在庫は、年末で76.3千トンとなった。(在庫月数 0.5ヶ月)

2021年全体では、生産量、内需とも2020年を上回っている。引き続き国内出荷を確保する構造になっており、輸出は出荷合計のおよそ3割弱となった。

国内生産能力も2,000千トン規模となっており、安定運転の確保は引き続き重要になっている。